佳作

みんなで学ぼうかいごのいろはツアーにさんかして

愛媛県　大洲市立大洲小学校三年　高木　結都

ぼくは、夏休みに「みんなで学ぼうかいごのいろはツアー」にさんかしました。それは、松山にあるえひめ県ざいたくかいごけんしゅうセンターに行き、かいごについて学ぶツアーです。ぼくは、かいごという言葉を知りませんでした。でもこのツアーにさんかして、かいごという言葉のい味や大切さにふれることができました。

まずはじめに、かいごセンターの人の話を聞きました。『命をありがとう』という話と『おじいちゃんもおばあちゃんも始めは赤ちゃんでした』という話でした。『命をありがとう』という話では、ぼくはお父さんとお母さんがいて生まれてきたけれど、お父さんやお母さんにもお父さんとお母さんがいて、ずっと命をうけついで、ぼくは生まれてきていることがわかりました。だからぼくの命もみんなの命も大切にしようと思いました。『おじいちゃんもおばあちゃんも始めは赤ちゃんでした』という話では、生まれてからはできることがふえてくるけれど、おじいちゃんおばあちゃんになっていくと、できないことがだんだんふえてくる。だから、できなくなったことにおてつだいがいる、そのことをかいごということがわかりました。

次にけんしゅうセンターの中でいろいろなたいけんをしました。おふろやトイレでは、おじいちゃんおばあちゃんにあわせて手すりがついていたり、だんさがないようになっていました。ぼくが一番心にのこったことは、車いすのたいけんと、かいごベットのたいけんです。車いすのたいけんでは、手すりや足おきのぶ品がはずれる車いすにのりました。前からのりおりするだけでなく、手すりのぶ品をはずして横からのることができたり、右足はうまく動かすことができない人は、車いすの左の足おきのぶ品をはずしてのることを、おしえてもらいました。かいごベットのたいけんでは、なかなか自分ではおきあがることができない人のかいごのしかたを学びました。足をのばしたままおきあがらせようと、かいごすると、なかなか体がおもくておきあがらせることがむずかしかったけれど、ひざを立てたじょうたいにしてかいごをすると、あっという間にかるくおきあがらせることができたときには、びっくりしました。

ぼくは、このツアーにさんかして、まずぼくの百四さいのひいばあちゃんのことを、思い出しました。ぼくは、自分からお話をすることは、とくいではないけれど、ひいばあちゃんやぼくのまわりにたすけをもとめている人がいたら、たすけてあげたいです。今年の夏休みには、ぼくにいのちをくれたごせんぞ様にいのちをありがとうとつたえたいです。